



し お じ 汐 路

鳴門市鳴門西小学校
校長室だより No. 2
令和4年4月25日（月）

1 今年も目指すは「自律した児童の育成」

今年度も本校は、「自律した児童の育成」を目指し教育活動を展開していきます。そのためには、児童の自己決定や自己選択を重視していきたいと考えています。主体的に考えることができる児童は、課題に対して自分の考えをしっかりともつことができることが大切です。自分の考えをもつことができたなら、それを他の人に伝えたり表現したりすることができるとなお良いと思います。表現するためには、学校生活の中で自己決定したり、自分でいくつかあるものの中から選択したりすることが大切になってきます。その力をしっかりと育て、「自分で考え、判断し、行動できる児童」すなわち「自律した児童」の育成につなげていけたらと思います。また、自律した児童の育成を目指す学校像としては、「あわっこ」がキーワードです。「あわっこ」とは次の通りです。



- あ 安全・安心な学校
- わ わかる・できる喜びを保障する学校
- つ つながりを活かす学校
- こ 子供ファーストの取組を展開する学校

この「あわっこ」というキーワードのような学校づくりを行い、「自律した児童」の育成を図っていきたくと思っています。

2 理科の学習（3・4年生）

3年生は、今年度から理科・社会の学習が始まりました。この日は、理科のワークを持って春の様子を観察しに行っていました。同じ時間帯に、4年生も理科の授業で観察に行っていました。いろいろな春を発見していたようです。



3 朝会の話 「しあわせのバケツ」

4月25日（月）の朝会における校長講話として「しあわせのバケツ」ということを話しました。内容は、次のようなものでした。

一人ひとりのこころの中には「しあわせのバケツ」がある。そのバケツは、良い心や温かい気持ちをつめていくためにある。良い心や温かい気持ちが増えると、人は幸せを感じるようになる。自分のバケツには自分自身でそれらの心や気持ちを増やすことはできない。他の人に温かい言葉かけや親切な行動をしていくと、他の人のバケツにはしあわせな気持ちが増え、自分のバケツにもしあわせな気持ちが満ちてくる。逆に、人に意地悪やいじめをすると、人のバケツは空っぽになり、ひいては自分のバケツも空っぽになってしまう。さて、みなさんは、人のバケツを温かい気持ちや言葉でいっぱいにできていますか？ また、自分のバケツには、しあわせな心が詰まっていますか？ これからの生活で、みんなが幸せになっていくために、どうしたら良いか考えてみてください。

これは、アメリカの絵本「しあわせのバケツ」（キャロル・マックラウド作）の内容です。左に書いたように、本校が目指す「あわっこ」というキーワードに関連して、児童一人ひとりの心理的安全性が保障され、安全・安心な鳴門西小学校にしていくために講話をしました。今後この絵本に書かれているように、一人ひとりの「しあわせのバケツ」がしあわせな気持ちで満たされるよう取組を展開していきたいと思っています。



（文責：校長 黒田 博章）